

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
分担研究報告書

希少難治性てんかんのレジストリ構築による総合的研究

研究分担者 川合 謙介 東京医療保健大学医療保健学部 教授

研究要旨

異形成性腫瘍に伴う難治性てんかんについて、レジストリ登録データに対して解析を加える調査項目を検討した。レジストリ基本項目以外に悪性化率、薬剤による発作消失率、手術治療の内容と転帰についての検討が必要である。

A．研究目的

本分担研究は、希少難治性てんかんのうち、異形成性腫瘍に伴う難治性てんかんについて、全国規模で症例を集積し、さらに追跡調査を行って、病態、発達・併存障害、治療反応、社会生活状態、死亡に関する疫学的な根拠を得ることを目的とする。

B．研究方法

てんかんに関連する異形成性腫瘍の代表として神経節膠腫と胚芽異形成性神経上皮腫瘍に注目する。

本年度は、文献的資料等に基づいて、異形成性腫瘍に伴う難治性てんかんに関する調査項目の抽出を行う。

本年度の後半から開始された登録症例データに対して、来年度からこれらの調査項目に関する解析を行う。

（倫理面への配慮）

症例登録に関する倫理的配慮は全体研究に従う。本分担研究に関する特別な配慮は不要である。

C．研究結果

以下の項目を抽出した。

1. てんかんの発症年齢。2. 発生部位。3. 手術治療の有無。4. てんかん発作の状態。これらはレジストリデータから直接抽出できる。

さらに、本病態について、わが国におけるデータまたは科学的根拠の高いデータが欠如している項目は、5. 悪性腫瘍(WHO 分類に従う)および悪性化の割合。6. 抗てんかん薬による発作消失率。7. 手術治療の内容と転帰、である。

D．考察

これらの腫瘍の悪性度や悪性化率はきわめて低く、また随伴する薬剤抵抗性てんかん発作は、その周囲のてんかん原性を有する脳組織を含めた全摘出により高率に消失せしめ得るとされているが、切除範囲の決定など未知の点も多く、今後明らかにする必要がある。

E．結論

異形成性腫瘍に伴う難治性てんかんについて、レジストリ登録データに対して解析を加える調査項目を検討した。

G．研究発表

論文発表

- 1) 川合謙介． てんかんの外科治療-最近の話題-． 脳神経外科ジャーナル 23:627-634, 2014.
- 2) 川合謙介． 難治性てんかんのパラダイムシフト-緩和的治療の存在意義と迷走神経刺激療法-． 脳神経外科 42:807-816, 2014.

学会発表

- 1) 川合謙介． てんかん外科・その進歩と今後の展開． 第73回日本脳神経外科学会学術総会． 2014.10.11． 東京．
- 2) 川合謙介ほか． 海馬切除の pros and cons: Cut it, leave it or shred it? 第48回日本てんかん学会学術集会.2014.10.3. 東京

H．知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

なし。